

令和7年度補正予算 飼料増産優先枠 要望調査様式のガイダンス

機械導入事業の基本の考え方

「何のためにその機械装置を導入するのか」

これを飼料増産優先枠に当てはめると

「国産飼料の給与割合を増やすための〇〇〇をしたいので ●●の機械が必要。」となります。

何がしたいからその機械を導入するのか、というストーリーを整理してから資料作りに取り掛かりましょう。



ダレでもわかる！

- ・その農場でどのような飼料生産をしているのか、
 - ・その取組をするために、なぜ要望機械が必要なのか
- がわかるように、情報を整理して記載してください。



①飼料増産計画(給与割合計算表含む)から要望書作成用データに入力する際、現状値及び目標値が一致していることを確認の上、提出すること

要望書

機械経費導入の効率性等の検証※12			成果目標の算定根拠 ※18																成果目標値
導入の必要性 ※15	成果目標の種類 (1~6) ※17	算定根拠 ※19	現状値 (事業実施前年度)								目標値 (事業実施翌年度)								増加(削減) 率 (%) ※20
【1】			①	単位	②	単位	③	単位	現状値 (①×②×③)	単位	①	単位	②	単位	③	単位	目標値 (①×②×③)	単位	
選択時から選択	選択時から選択	選択時から選択	半角で入力	自動で表示されます	半角で入力	自動で表示されます	半角で入力	自動で表示されます	自動で入力されます	自動で表示されます	半角で入力	自動で表示されます	半角で入力	自動で表示されます	半角で入力	自動で表示されます	自動で入力されます	自動で表示されます	

現状値

目標値

協議会名

産林クラスター協議会

取組主体名(借受者名)

有限会社●●●●● (要件 1. 面積拡大)

飼料増産計画

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標		目標年度	目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)	
		無	有 (面積・数量・単位)	単位	(面積・数量・単位)			単位
飼料作付けに係る取組								
○	青刈りとうもろこし等の高品質養作物の生産 (供給目的の生産を含む)		○	3.3	ha	4	R9	牧草地で収穫機を導入することにより作業効率を向上させ、デントコーンの面積拡大分の作業時間を確保する。
	アルファルファ等の多量飼料作物の生産 (同上)							
	稲藁(穀草等)の生産 (同上)			11.4	ha	15	R9	イタリアノ面積拡大を行うとともに、適期収穫ができるよう、収穫機械を複数体制にて食糧用飼料用稼働するとともに、収量の増加を図る。また、機械導入することによって作業効率的にさせ、稲むらの作り面積拡大分の作業時間の確保をする。
	稲わら(ストロー)の供給地域の確保 (同上)							
生産物の販売								
○	地域振興型の施設 (供給目的を含む)							
	青刈りとうもろこし等の高品質養作物の販売 (間接的)							
	優良品種への転換 (同上)							
	飼育動物の品質向上 (同上)							
	給食用飼料の品質向上 (同上)							
	輸入給料から国産給料へへの転換 (購入飼料を含む)							
	国産濃厚飼料の利用拡大 (同上)							
	輸入とともにかた国産子葉用とともにかたへの転換 (同上)							
	収容の取組拡大							
	国産稲わらを利用した (飼料用の供給を含む)							
	エコフィールドの生産・利用拡大							
	ふたつの事業に併せて実施する							

飼料増産計画

今年度より一歩は入らぬ限りで作業し、適期に作業を行うことで収穫が期待できると見込まれる。そのため、収穫機を導入することで適期に作業ができるようになることにより、中でも各地の農産品は幅広く活用できる。販売促進にすることで販路の広い、良い飼料が生産できるため、購入飼料の量を減る。

現状値 目標値

現状	達成目標
74.5%	77.3%

飼料作物面積		
	現状	達成目標
総面積	ha	
うち稲類面積 (休耕地、○○)	ha	

飼料作物単収		
作物種	現状	達成目標
	kg/10a	kg/1

※TMRセンター等が総面積を維持したまま、高栄養作物等への

● 一宗1000セクター等が総面積を維持したまま、商業案件増等、転換面積を増やす目標とする場合に記載

※計算式が間違っている場合があるので確認します。
※照会内容によっては、直接記載して照会します。

国産飼料の給与割合計算表		【現状】		取組主体名:○○○			
○濃厚飼料							
【購入】							
飼料の種類	購入量(kg)	国産割合(%)	国産飼料 給与量(kg)	飼料の種類	栽培面積(a)	単収 (kg/10a)	国産飼料 給与量(kg)
			0				
			0				
			0				
計							
○粗飼料							
【購入】							
飼料の種類	輸入(kg)	国産(kg)	計(kg)	飼料の種類	栽培面積(a)	単収 (kg/10a)	国産飼料 給与量(kg)
			0				
			0				
			0				
			0				
計	0	0	0				
合計		粗飼料	濃厚飼料				
給与量(kg)	0	0	0				
％国産給与量(kg)	0	0	0				
国産給与率(%)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!				

項目	現状値	目標値
1. 組織体制	1.1 組織体制の整備状況	1.1 組織体制の整備状況
2. 経営戦略	2.1 経営戦略の策定状況	2.1 経営戦略の策定状況
3. 経営計画	3.1 経営計画の策定状況	3.1 経営計画の策定状況
4. 経営資源	4.1 経営資源の確保状況	4.1 経営資源の確保状況
5. 経営成果	5.1 経営成果の達成状況	5.1 経営成果の達成状況

2. 飼料増産計画及び給与割合計算表の留意点

(1) 飼料増産計画の記載方法

- ① 協議会名と取組主体名を記載
- ①※ 取組主体の飼養区分が「飼料受託等」の場合は、取組主体の要件(P.8の②参照)を記載する。
- ② 新たな取組や取組を拡大する項目に「○」を記載
- ③ 取組の現状の有無、面積・数量・単収、単位を記載
給与割合計算表と整合性がある内容にする。
同じほ場で数回刈り取りを行う場合、面積は実面積、
延面積のどちらでもよいが、作付けの内容を⑥に記載し、
どちらの面積で記載したかがわかるようにする。
- ④ 達成目標の面積・数量・単収、単位を記載
給与割合計算表と整合性がある内容にする。
新たな取組や拡大予定がないなど、③の数値と同じ
場合も「達成目標」の数値は記載する。
- ⑤ 目標年度を記載
事業実施年度(機械導入年度)の翌年度を記載する。
- ⑥ 具体的な取組内容を記載
給与割合計算表と整合性がある内容にする。
どのような取組をするのか、目標達成のためにどの
ように要望機械を使うのか(要望機械の必要性)等を
記載する。

協議会名: 農林クラスター協議会

取組主体名(借受者名): 有限会社●●●●●

要件 1. 面積拡大

飼料増産計画

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標	目標年度	目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
		無	有 (面積・数量・単収) 単位			
○	飼料作付に係る取組					
○	青刈りとうもろこし等の高栄養作物の生産(供給目的の生産を含む)		○ 3.3 ha	4 ha	R9	牧草地で収穫機械を導入することにより作業効率を向上させ、デントコーン畑の面積拡大分の作業時間を確保する。
○	アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産(同上)					
○	粗飼料(牧草等)の生産(同上)		○ 11.4 ha	15 ha	R9	イタリアンの面積拡大を行うとともに、適期収穫ができるように収穫機械を2台体制にして良質粗飼料を確保するとともに、単収の増加を図る。また、機械導入をすることで作業効率を向上させ、稲WCSの作付面積拡大分の作業時間の確保をする。
	稲わら(ストロー)の供給地域の確保(同上)					
	子実用とうもろこしの生産(同上)					
	生産性の向上					
	草地更新期間の短縮(供給目的を含む)					
	青刈りとうもろこし等の高栄養作物への転換(同上)					
○	優良品種への転換(同上)		○ 1.5 ha	4.5 ha	R9	今までハローは人から借りて作業をしており、適期に作業をすることができず収穫が遅れていたことが多かった。そのため機械を導入することで適期に作業ができるようになることと、併せて牧草を地域の推奨品種に転換させる。推奨品種にすることで栄養価の高い粗飼料が生産できるため、購入飼料の削減を図る。
	稲発酵粗飼料の品質向上(同上)					
	輸入粗飼料から国産粗飼料への転換(購入飼料を含む)					
	国産濃厚飼料の利用拡大(同上)					
	輸入とうもろこしから国産子実用とうもろこしへの転換(同上)					
	放牧の取組拡大					
	国産稲わらの利用拡大(飼料用の供給を含む)					
	エコフィードの生産・利用拡大					
	その他飼料増産に関する取組					

注1:「取組事項」欄は事業実施に当たり、新たな取組や取組を拡大しようとする事項を選んでチェックすること。
注2:「現状での取組」欄は、現状での取組の有無をチェックすること(取り組んでいるすべての事項)及び取組状況の数値を記入すること(ha、トン、kgなど)。
注3:「達成目標」欄は取組計画数量(ha、トン、kgなど)を記入すること。
注4:「目標達成のための取組計画」欄は、目標達成のために実施しようとする取組の具体的な内容(手段など)を記入すること

- ⑦ 「飼料生産組織」以外の取組主体は、成果目標の国産飼料の給与割合を記載
- ⑦※ 「飼料生産組織」は、成果目標に応じて飼料作物面積又は単収を記載
「飼料生産組織」で面積を成果目標とする場合のうち、TMRセンター等が総面積を維持したまま、高栄養作物等への転換面積を増やす目標とする場合は、「飼料作物面積」の「総面積」の現状値と目標値は同じ値を、「うち転換面積」の欄に転換した作物種とその面積(現状値と目標値)を記載する。

○「飼料生産組織」以外の取組主体の成果目標

国産飼料の給与割合

現状	達成目標
74.5%	77.3%

○「飼料生産組織」の成果目標

飼料作物面積

	現状	達成目標
総面積	ha	ha
うち転換面積 (作物種:○○)	ha	ha

飼料作物単収

作物種	現状	達成目標
	kg/10a	kg/10a

※TMRセンター等が総面積を維持したまま、高栄養作物等への転換面積を増やす目標とする場合に記載

(2) 飼料増産計画と国産飼料の給与割合計算表の整合性が合っていない事例

(NG例)

【飼料増産計画】

デントコーンとイタリアンライグラスの生産のみ
取組計画が記載されている。

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標		目標年度	目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
		無	有	〈面積・数量〉	単位	〈面積・数量〉	単位
	飼料作付面積の拡大						
○	青刈りとうもろこし等の高栄養作物の生産(供給目的の生産を含む)		○	3.3	ha	4	ha
	アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産(同上)						
○	粗飼料(牧草等)の生産(同上)		○	6.2	ha	8.3	ha

【給与割合計算表】

粗飼料【自給】に、飼料増産計画に記載がない
「稲WCS」の記載がある。

○粗飼料				【自給】				国産飼料 給与量(kg)
【購入】				飼料の種類	栽培面積(a)	単収 (kg/10a)		
飼料の種類	輸入(kg)	国産(kg)	計(kg)	飼料の種類	栽培面積(a)	単収 (kg/10a)		165,000
デントコーン	10,000		10,000	デントコーン	330	5,000		124,000
アルファ	300		300	イタリアン	620	2,000		83,523
				稲 WCS	523	1,597		83,523
計	10,300	0	10,300	計	1,473	8,597		456,046

(OKにするには...)

【飼料増産計画】

稲WCSの生産情報も飼料増産計画に入れて
整合性をとること。

飼料増産計画

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標		目標年度	目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
		無	有	〈面積・数量〉	単位	〈面積・数量〉	単位
	飼料作付面積の拡大						
○	青刈りとうもろこし等の高栄養作物の生産(供給目的の生産を含む)		○	3.3	ha	4	ha
	アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産(同上)						
○	粗飼料(牧草等)の生産(同上)		○	11.4	ha	15	ha

(3) 飼料増産計画で間違いが多かった事例

③、④

- ・現状値のみしか書いていない。
- ・国産飼料の給与割合計算表に記載がない。

→給与割合計算表と整合性を取り、
③、④ともに記載する。

⑤

- ・目標年度が事業実施年度(機械導入)の翌年度になっていない。

→R8年度に要望するものは
目標年度はR9年度と記載する。
(現状値はR7年度)

⑥

- ・「達成目標」の数値などの記載及び内容が給与割合計算表と整合性がない。

NG例)「単収の増加をする」と記載されているが、
給与割合計算表【目標】の単収の値が増えていない。

→給与割合計算表と整合性を取り、記載する。

③、④の数値だけでは、給与割合計算表との整合性がわかりにくい場合は、
⑥に整合性があることがわかるように、取組計画の内容を記載する。

①

協議会名: 農林クラスター協議会

①※

取組主体名(借受者名): 有限会社●●●● (要件 1. 面積拡大)

③

④

⑤

⑥

②

飼料増産計画

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標	目標年度	目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
		無	有 (面積・数量・単収)	(面積・数量・単収)		
☐	青刈りとうもろこし等の高栄養作物の生産(供給目的の生産を含む)		○ 3.3 ha	4 ha	R9	牧草地で収穫機械を導入することにより作業効率を向上させ、デントコーン畑の面積拡大分の作業時間を確保する。
☐	アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産(同上)					
☐	粗飼料(牧草等)の生産(同上)		○ 11.4 ha	15 ha	R9	イタリヤンの面積拡大を行うとともに、適期収穫ができるように収穫機械を2台体制にして良質粗飼料を確保するとともに、単収の増加を図る。また、機械導入をすることで作業効率を向上させ、稲WCSの作付面積拡大分の作業時間を確保する。
☐	稲わら(ストロー)の供給地域の確保(同上)					
☐	子実用とうもろこしの生産(同上)					
☐	生産性の向上					
☐	草地更新期間の短縮(供給目的を含む)					
☐	青刈りとうもろこし等の高栄養作物への転換(同上)					
☐	優良品種への転換(同上)		○ 1.5 ha	4.5 ha	R9	今までハローは人から借りて作業をしており、適期に作業をすることができず収穫が遅れていたことが多かった。そのため機械を導入することで適期に作業ができるようになることと、併せて牧草を地域の推奨品種に転換させる。推奨品種にすることで栄養価の高い粗飼料が生産できるため、購入飼料の削減を図る。
☐	粗飼料粗飼料の品質向上(同上)					
☐	輸入粗飼料から国産粗飼料への転換(購入飼料を含む)					
☐	国産濃厚飼料の利用拡大(同上)					
☐	輸入とうもろこしから国産子実用とうもろこしへの転換(同上)					
☐	放牧の取組拡大					
☐	国産稲わらの利用拡大(飼料用の供給を含む)					
☐	エコフィードの生産・利用拡大					
☐	その他飼料増産に関する取組					

⑦

○「飼料生産組織」以外の取組主体の成果目標

国産飼料の給与割合

現状	達成目標
74.5%	77.3%

⑦※

○「飼料生産組織」の成果目標

飼料作物面積

	現状	達成目標
総面積	ha	ha
うち転換面積 (作物種:○○)	ha	ha

飼料作物単収

作物種	現状	達成目標
	kg/10a	kg/10a

※TMRセンター等が総面積を維持します。高栄養作物等への転換面積を増やす目標とする場合に記載

⑥

・具体的な内容が記載されていない。

→何の取組をするのか、

要望機械を導入して何をしたいのか、
要望機械の必要性を記載する。

記載例：

- ・〇〇〇の取組をするため、
要望機械を導入して△△をしたいが、
□□であることから、要望機械が必要。
- ・△△をしたいが、□□であることから、
要望機械を導入して、〇〇〇の取組を行う。

協議会名： 農林クラスター協議会
取組主体名（借受者名）： 有限会社●●● (要件：1.面積拡大)

飼料増産計画

取組事項	取組の現状		達成目標		目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
	無	有 (面積・数量・単収)	無	有 (面積・数量・単収)	
飼料増産に係る取組					
青刈りとともこし等の高栄養作物の生産（供給目的の生産を含む）		○ 3.3 ha		4 ha	R9 牧草地で収穫機械を導入することにより作業効率を向上させ、 アミノ酸・ミネラルの供給拡大分の作業時間を確保する。
アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産（同上）					
粗飼料（牧草等）の生産（同上）		○ 11.4 ha		15 ha	R9 イタリアンの面積拡大を行うとともに、適期収穫ができるように 収穫機械を2台体制にして高品質飼料を確保するとともに、単 収の増加を図る。また、機械導入をすることで作業効率を向上 させ、粗飼料の作付面積拡大分の作業時間の確保をする。
堆わら（スロー）の供給地域の確保（同上）					
子実用ともこしの生産（同上）					
生産性の向上					
【地域更新期間の短縮（供給目的を含む）					
青刈りとともこし等の高栄養作物への転換（同上）					
優良品種への転換（同上）		○ 1.5 ha		4.5 ha	R9 今までハローは人から借りて作業しており、適期に作業をす ることができず収穫が遅れていたことが多かった。そのため機 械を導入することで適期に作業ができるようになることにより、併 せて牧草を地域の推奨品種に転換させる。推奨品種にすること で栄養価の高い粗飼料が生産できるため、購入飼料の削減 を図る。
粗飼料の品質向上（同上）					
輸入粗飼料から国産粗飼料への転換（購入飼料を含む）					
国産濃厚飼料の利用拡大（同上）					
輸入ともこしから国産子実用ともこしへの転換（同上）					
放牧の取組拡大					
国産堆わらの利用拡大（飼料用の供給を含む）					
エコフィードの生産・利用拡大					
その他飼料増産に関する取組					

注1：「取組事項」欄は事業実施に当たり、新たな取組や取組を拡大しようとする事項を選んでチェックすること。
注2：「現状での取組」欄は、現状での取組の有無をチェックすること（取り組んでいるすべての事項）及び取組状況の数値を記入すること（ha、トン、kgなど）。
注3：「達成目標」欄は取組計画数量（ha、トン、kgなど）を記入すること。
注4：「目標達成のための取組計画」欄は、目標達成のための取組計画、行うとする取組の具体的な内容（手段など）を記入すること。

⑦ 飼料生産組織以外の取組主体の成果目標

飼料生産組織	現状	達成目標
飼料作物面積	ha	ha
総面積	ha	ha
うち転換面積 (作物種：〇〇)	ha	ha

飼料作物単収

作物種	現状	達成目標
	kg/10a	kg/10a

※TMRセンター等が粗飼料を維持したまま、高栄養作物等への
転換面積を増やす目標とする場合に記載

※特に「現状」と「目標」が34%以上で同数値となっている場合は、
新たな取組の記載がされていないと要望機械の必要性がわかりにくいので、
具体的な内容をしっかりと記載すること。

（同数値でも何かしら取組が変わらなければ、要望機械が必要にならないのでは。）

※既存機械がある場合は、複数台数が必要な理由を記載すること。

※既存機械はないが新たな取組ではない場合は、これまでの作業はどうしていたかを
記載すること。

※要望機械の作業(A)では、数値に変化がなく、別の作業(B)で変化がある場合は、
『要望機械を導入することで(A)では〇〇になり、(B)が△△できる』といった全体像
が分かるように記載すること。

⑥

・作付面積を拡大する場合は、
その拡大方法を具体的に記載する。

※借地など、自己所有地以外で作付面積を拡大する計画の場合は、
事業参加申請時に、増加する面積の契約書や覚書等の根拠を提出する。

・機械導入事業で導入した機械は、取組主体のみが使うことができるため、
取組主体が飼料生産組織ではない場合で、
飼料生産作業の一部を他者に委託する場合は、

①導入機を取組主体の圃場のみで使う

②生産した飼料作物は取組主体で使う
ことを記載する。

協議会名： 農林クラスター協議会
取組主体名(借受者名)： 有限会社 ●●●● (要件 1. 面積拡大)

飼料増産計画

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標		目標年度	目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
		無	有 (面積・数量・単収) 単位	(面積・数量・単収) 単位			
○	青刈りとうもろこし等の高栄養作物の生産(供給目的の生産を含む)		○ 3.3 ha	4 ha	R9	牧草地で収穫機械を導入することにより作業効率を向上させ、デントコーン畑の面積拡大分の作業時間を確保する。	
	アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産(同上)						
○	粗飼料(牧草等)の生産(同上)		○ 11.4 ha	15 ha	R9	イタリアンの面積拡大を行うとともに、適期収穫ができるように収穫機械を2台体制にして良質粗飼料を確保するとともに、単収の増加を図る。また、機械導入をすることで作業効率を向上させ、稲WCSの作付面積拡大分の作業時間を確保する。	
	稲わら(ストロー)の供給地域の確保(同上)						
	子実用とうもろこしの生産(同上)						
	生産性の向上						
	草地更新期間の短縮(供給目的を含む)						
	青刈りとうもろこし等の高栄養作物への転換(同上)						
○	優良品種への転換(同上)		○ 1.5 ha	4.5 ha	R9	今までハローは人から借りて作業をしており、適期に作業をすることができず収穫が遅れていたことが多かった。そのため機械を導入することで適期に作業ができるようになるとともに、併せて牧草を地域の優良品種に転換させる。優良品種にすることで栄養価の高い粗飼料が生産できるため、購入飼料の削減を図る。	
	稲発酵粗飼料の品質向上(同上)						
	輸入粗飼料から国産粗飼料への転換(購入飼料を含む)						
	国産濃厚飼料の利用拡大(同上)						
	輸入とうもろこしから国産子実用とうもろこしへの転換(同上)						
	放牧の取組拡大						
	国産稲わらの利用拡大(飼料用の供給を含む)						
	エコファードの生産・利用拡大						
	その他飼料増産に関する取組						

注1:「取組事項」欄は事業実施に当たり、新たな取組や取組を拡大しようとする事項を選定してチェックすること。
注2:「現状での取組」欄は、現状での取組の有無をチェックすること(取り組んでいるすべての事項)及び取組状況の数値を記入すること(ha、トン、kgなど)。
注3:「達成目標」欄は取組計画数量(ha、トン、kgなど)を記入すること。
注4:「目標達成のための取組計画」欄は、目標達成のために実施しようとする取組の具体的な内容(手段など)を記入すること

⑦「飼料生産組織」以外の取組主体の成果目標

国産飼料の給与割合	
現状	達成目標
74.5%	77.3%

⑦※

⑦「飼料生産組織」の成果目標

飼料作物面積		飼料作物単収	
	現状	達成目標	
総面積	ha	ha	kg/10a
うち転換面積 (作物種:○○)	ha	ha	kg/10a

※TMRセンター等が総面積を維持したまま、高栄養作物等への転換面積を増やす目標とする場合に記載

⑥

- 「草地等管理用機械」を水田で使用する場合は、**水田で作業を行うこと、及び飼料作物の作付作業のみで使用する旨の誓約書**を提出することを記載する。

記載例：

面積拡大のため地域の水田●haを借りるが、今まで▲▲機械装置は人に借りていたため適期に作業ができなかった。そこで面積拡大するにあたり、計画的に作付作業を行い収量を増やすため、▲▲の機械装置を導入する。また水田では今後、飼料作物の■しか栽培せず、▲▲機械装置もその作付作業でしか使用しないため、誓約書を提出する。

協議会名： 農林クラスター協議会
取組主体名(借受者名)： 有限会社●●●● (要件 1. 面積拡大)

飼料増産計画

取組事項	取組対象事項	取組の現状		達成目標		目標達成のための取組計画 (具体的な取組内容を記述する。)
		無	有 (面積・数量・単収)	無	有 (面積・数量・単収)	
○	青刈りとうもろこし等の高収量作物の生産(供給目的の生産を含む) アルファルファ等のマメ科飼料作物の生産(同上)		○ 3.3 ha	4 ha	R9	秋草地で収穫機械を導入することにより作業効率を向上させ、デントコーン畑の面積拡大分の作業時間を確保する。
○	粗飼料(牧草等)の生産(同上) 稲わら(ストロー)の供給地域の確保(同上) 子家用とうもろこしの生産(同上)		○ 11.4 ha	15 ha	R9	イタリアンの面積拡大を行うとともに、適期収穫ができるように収穫機械を2台体制にして良質粗飼料を確保するとともに、単収の増加を図る。また、機械導入することで作業効率を向上させ、稲WCSの作付面積拡大分の作業時間の確保をする。
	生産性の向上 草地更新期間の短縮(供給目的を含む) 青刈りとうもろこし等の高収量作物への転換(同上)					
○	優良品種への転換(同上) 粗飼料粗飼料の品質向上(同上)		○ 1.5 ha	4.5 ha	R9	今までハロー1台から借りて作業をしており、適期に作業をすることができず収穫が遅れていたことが多かった。そのため機械を導入することで適期に作業ができるようになることと、併せて牧草を地域の優良品種に転換させる。優良品種にすることで地産物の高い粗飼料が生産できるため、購入飼料の削減を図る。
	輸入粗飼料から国産粗飼料への転換(購入飼料を含む) 国産濃厚飼料の利用拡大(同上) 輸入とうもろこしから国産子家用とうもろこしへの転換(同上) 放牧の取組拡大 国産稲わらの利用拡大(飼料用の供給を含む)					
	エコファードの生産・利用拡大 その他飼料増産に関する取組					

注1：「取組事項」欄は事業実施に当たり、新たな取組や取組を拡大しようとする事項を選んでチェックすること。
注2：「現状での取組」欄は、現状での取組の有無をチェックすること(取り組んでいる事項)及び取組状況の数値を記入すること(ha、トン、kgなど)。
注3：「達成目標」欄は取組計画数量(ha、トン、kgなど)を記入すること。
注4：「目標達成のための取組計画」欄は、目標達成のために実施しようとする取組の具体的な内容(手段など)を記入すること

○「飼料生産組織」以外の取組主体の成果目標

国産飼料の給与割合	現状	達成目標
	74.5%	77.3%

○「飼料生産組織」の成果目標

飼料作物面積	現状	達成目標
総面積	ha	ha
うち転換面積 (作物種：○○)	ha	ha

飼料作物単収

作物種	現状	達成目標
	kg/10a	kg/10a

※TMRセンター等が給面積を維持したまま、高収量作物等への転換面積を増やす目標とする場合に記載

収益性向上対策では、**飼料増産優先枠に限り、以下をすべて満たす場合は、水田で飼料作物を作付するための「草地等管理用機械装置」の要望が可能**です。

- 水田は、取組主体(畜産農家等)が所有している飼料生産用の水田、又は、取組主体が飼料生産用に借りた水田とする
- 取組主体は、要望する機械は**飼料作物の作付作業のみで使用する旨の誓約書等**を提出する(稲WCSに係る作業は補助対象。飼料米に係る作業に利用する場合は補助対象外)
- 要望する機械の**法定耐用年数の間、毎年、協議会が誓約書の内容が遵守され適切に利用されていることを確認し、それがわかる資料を協議会で保管**すること。
- 要望する機械は、取組主体が自ら飼料生産を行うための使用に限る。
耕種農家など他者へ貸すなど、**取組主体の飼料生産作業以外に使用しない**こと。

3. 要望書作成用データ(統合版データ)の留意点

①優先順位は全体の通し番号ではないため、協議会ごとの優先順位にする。

事業区分	統合版通し番号	県名	クラスター協議会名	優先順位※2
協議会から提出されたCSVファイルのデータ				
3	1	東京都	農林クラスター協議会	1
3	2	東京都	農林クラスター協議会	2
3	3	東京都	農林クラスター協議会	3
3	4	東京都	NOURIN酪農クラスター協議会	1
3	5	東京都	NOURIN酪農クラスター協議会	2

②「飼料受託組織」の要件は1～3で選択する。ここで記している要件とは要領別紙2ー1第3の2の(2)のイのこと。

取組主体要件※9	クラスター計画のテーマ番号(成果目標)※16	飼養区分※10
1	V	飼料受託等
1・2	V	飼料受託等

要件1:面積拡大

導入した機械装置を用いた作業の受託面積を目標年度までに機械装置の導入年度の前年度又は過去3か年の平均の実測値(現状値)より、北海道では20ha以上、都府県では10ha以上拡大すること。

要件2:収穫量増加

導入した機械装置を用いた収穫量の増加等の取組により、目標年度までに、過去3か年の平均の実測値(現状値)より、収穫量(TDNベース)をおおむね10%以上増加させること。

要件3:飼料自給率増加

導入した機械装置を用いて調製される混合飼料等について、目標年度までに、当該組織又は受益農家が給与する飼料中の飼料自給率(TDNベース)の値が、機械装置の導入年度の前年度又は過去3か年の平均の実測値(現状値)より、要領別紙2ー1第3の2の(2)のイの(ウ)に記載している値以上増加すること。

※詳細は要領を確認すること

※要望書作成用データは最終的には、配分→申請→成果報告まで活用するデータとなるので、間違いがないかしっかり確認すること。

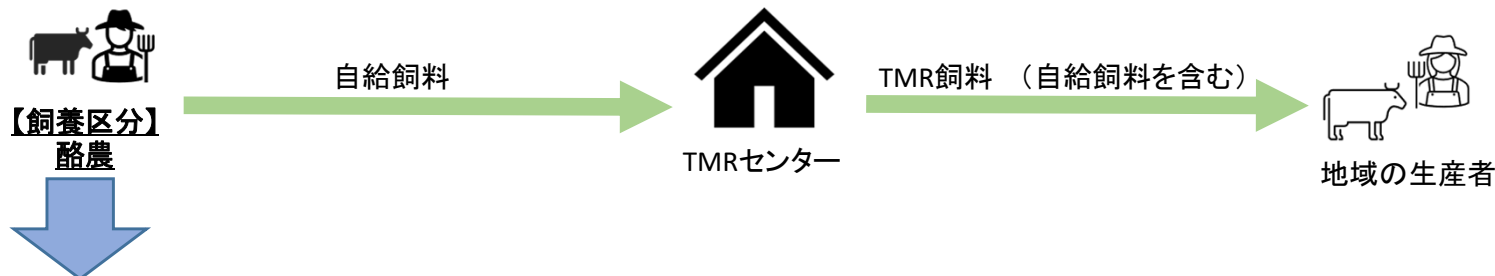
※式やマクロが入っている部分は勝手に修正しないこと。

4. 自給飼料をTMRセンターで調製する場合の○×事例

(事例1) 自分の牧場での利用と地域内の生産者に供給する場合 → 補助対象



(事例2) 地域の生産者のみに供給する場合 → 補助対象外

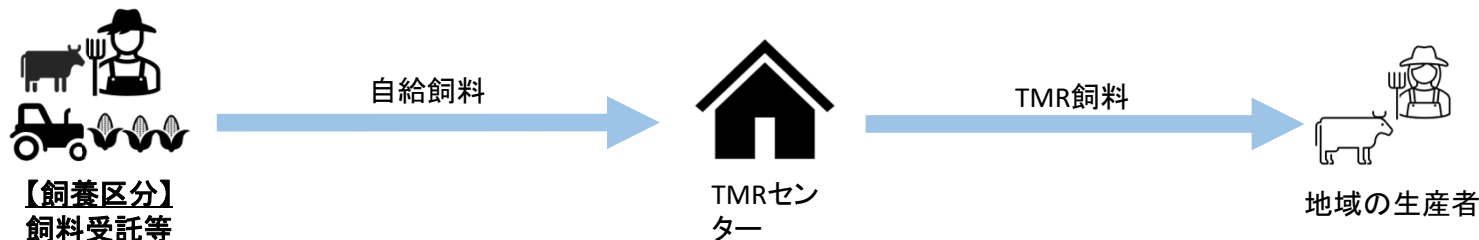


補助対象外の理由

・生産者への飼料供給のみを目的にできるのは、飼養区分が「飼料受託等」(コントラクターやTMRセンター等)のみになるため。

ただし...!

畜産農家でも、※飼養区分を「飼料受託等」を選択すれば**補助対象**になります。



留意点

- ・「飼料生産組織」の要件を満たしていること。
- ・成果目標は「飼料生産組織」の目標になります。
- ・自分で使う粗飼料の生産はできません。

※TMRセンターでなくても地域内供給がある場合は、こちらの給与割合計算表を活用してください。

国産飼料の給与割合計算表【現状】

取組主体名:○○○○○○○

○濃厚飼料

【購入】

飼料の種類	購入量(kg)	国産割合(%)	国産飼料給与量(kg)
			0
			0
			0
			0
計	① 0		② 0

【自給】

飼料の種類	栽培面積(a)	単収(kg/10a)	国産飼料総量(kg)	自己利用分		地域内供給分 (他者の利用)(kg)
				TMR飼料用(kg)	直接給与(kg)	
			0	0	0	0
			0	0	0	0
			0	0	0	0
			0	0	0	0
計	0		0	0	③ 0	0

○粗飼料

【購入】

飼料の種類	輸入(kg)	国産(kg)		計(kg)
		自給飼料(kg)	その他(kg)	
TMR飼料	1,100,000	100,000	250,000	1,450,000
				0
				0
				0
計	1,100,000	④ 100,000	⑤ 250,000	⑥ 1,450,000

【自給】

飼料の種類	栽培面積(a)	単収(kg/10a)	国産飼料総量(kg) A	自己利用分		地域内供給分 (他者の利用)(kg) D
				B TMR飼料用(kg)	C 直接給与(kg)	
牧草	400	3,500	140,000	100,000	30,000	10,000
青刈りとうもろこし	300	5,000	150,000	0	150,000	0
			0	0	0	0
			0	0	0	0
計	700		290,000	100,000	⑦ 180,000	10,000

$$A=B+C+D$$

総給与量	⑤	1,630,000	kg	→ ①+③+⑥+⑦
国産給与量	⑥	530,000	kg	→ ②+③+④+⑤+⑦
国産給与率		32.5	%	→ F/E×100

これらは同飼料を指すため、同じ数値を記載してください。